

## 6. 溜 池 調 査

県下には6,759ヶ所におよぶ主要溜池があり愛知用水の通水にともない、受益地区では多くの溜池が予備的な存在に変わり、遊休状態となった。更に昭和43年4月には豊川用水の通水が始まる計画であり、これらの地区でも養魚池としての利用価値が高まるものと考えられる。

本年度はこの溜池養魚開発のために環境条件および地理的条件について調査を実施した。

### (1) 調 査 方 法

県下各地の5ha以上の池を中心に46ヶ所を選び、環境条件として水温、PH、透明度およびプランクトン量について測定し、地理的条件として次の三種類に分類した。

(ア) 平地に堰を設けた池

(イ) 山の斜面が平地に接するところを堰止めた池

(ウ) 山地の凹地を堰止めた池

### (2) 結 果

表-1のとおりである。

### (3) ま と め

(ア) 水 質

問題は殆んどないが、ただ昭和池(豊橋)のし尿処理水の流入、大森池の工業用重油の流入等は、将来養魚池として利用するときには、水質の改善が必要である。

(イ) 水 位

愛知用水の受益地区では同用水の流入も可能で、これ等の溜池の水位はかなり安定している。豊川用水の通水後も同様のことが考えられるが、その他の溜池は10m以上に及ぶ減水する場合がある。

(ウ) 地 理 的 条 件

㉠に属する池は案外少なく、篠田池(瀬戸市)、地域池(藤岡村)があり、交通の便が悪く稚魚の搬入が困難である。㉡および㉢に属する池の大部分は交通の便が良く利用価値が大きい。

(エ) 農 業

㉠に属する池では農業の心配はなく、㉡に属する池で注水側に田畑のある場合でもそれらの面積が小さいためほとんど農業の影響は少ない。しかし㉢に属する池では注入水の性質、附近の田畑の農業の使用状況及び、過去に於ける被害状況を調べる必要がある。

(オ) 栄 養 状 態

プランクトンの出現数よりみると、㉡は一般に多く、栄養塩に富み、又㉢はこれに次いでいる。

荒井池（犬山市）のように上流部に養鶏地のある所では栄養塩が補給され、プランクトン数が多くなっている。

(カ) 養殖が行なわれている溜池

大池（春日井市）、大池（豊橋市植田）および不動ヶ池（幸田町）ではコイ、大池（豊橋市）では淡水真珠、康衛池では、沼エビ、コイの養殖を行っている。又、二又池（瀬戸市）、保田ヶ池（三好町）、大池（三好町）、芦ヶ池（田原町）、坂下大池（春日井市）等では鯉を放流している。

(キ) 養殖法

給餌飼育法が最も生産量を上げる方法であるが、無給餌の場合でも池の天然の生産力に依存するのみならず、施肥によって生産力を高めることが出来る。溜池養殖法はこれらいずれも可能であるが、将来高度に利用する場合、将来の粗放のみでなく、適地には積極的に網生簀の普及をはかり、両者の組合せによる振興を考えるべきである。



所在地	地名	大きさ	調査年月日	水温	PH	透明度	フナソケット			地理	備考
							フナ類 (幼生)	枝角類	輪虫類		
美 郡	芦ヶ池	59,400.0	42.1.10	3.3	5.8	13.0	13 (100)	18	75.4	A	(豊川用水) コイを放流、釣池、水深2mで池全面に水生植物繁殖除去の必要あり。 えん堤附近は約10m、稚生鯿又は、集約養殖に適する。
	平沢池	59,000.0	◆	3.5	6.6	25以上	(4)	3	2.6	B	
	大正池	50,000.0	◆	4.0	6.0	15以上	(1)	1	1.9	B	(豊川用水) 養殖のため、集約養殖が良い。 下水、し尿処理水流入、水色は茶褐色、フナモニアが少なければ粗放が可能。家庭排水流入、淡水真珠養殖を実施可能。家庭排水又は粗放が可能 コイ、フナの集約又は粗放が可能 家庭排水が多少流入するが生鯿の設置は可能 コイ養殖を実施 水深2mで管理がし易い。
豊 橋 市	昭和池	51,421.4	42.1.11	3.7	9.2	0.55	79 (92)	0	1,184.5	A	
	大池	77,014.4	◆	2.2	9.2	0.5	53 (171)	0	8,827	A	
	新池	70,000.0	◆	1.8	7.0	0.5	0	3	7	A	
空 郡	反沢池	60,108.0	◆	1.7	6.6	0.7	(3)	0	2	A	
	嶺山池	73,427.7	◆	3.2	6.8	0.8	111 (82)	0	1.6	B	
	(種田)池	95,113.3	◆	3.1	6.8	0.8	37 (30)	0	327	B	
岡 崎 市	水神池	55,710.0	◆	2.2	6.8		1 (9)	0	31	A	
	宝地池	52,000.0	42.1.10	4.4	6.2	20以上	3 (13)	42	121	C	水深はかなり深く稚生鯿設置が可能 食料養であるため、集約養殖に適する。
	奥山田池	50,000.0	42.1.6	5.0	6.4	15以上	3 (4)	4	3.6	B	
豊 田 市	立入池	23,121.1	42.1.5	3.9	6.2	0.9	6 (12.6)	0	4.4	A	(しだれ用水) コイ放養 施肥養魚実施
	保田ヶ池	70,525.5	42.1.22.2	6.3	6.9	1.5	3 (2.9)	7	90.9	B	(豊知用水) コイ、フナの集約養殖に適する。
	細口池		◆	6.4	6.6	1.3	(12)	5	219	A	
西 加 茂 郡	大池	96,800.0	◆	6.5	6.0	0.8	21 (3.7)	19	50	B	粗放又は集約養殖 給餌管理が必要
	柳沢池	20,000.0	42.1.22.6	5.0	6.6	15以上	3 (1.8)	8	37.6	B	
	新池	5,000.0	◆	5.2	7.0	15以上	(3)	6	1	B	
刈 谷 市	洲原池	305,000.0	42.1.22.1	6.3	6.6	1.70	1 (2.1)	11.5	3.7	B	(豊知用水) 地理的(公園内)に云って粗放がよい。 水深が深い。
	岩ヶ池	50,000.0	◆	7.5	5.8		21 (7.1)	1.4	31.9	A	
愛 知 郡	勤使池	34,000.00	42.1.2.3	9.6	6.7	0.75	48 (9)	3.5	1.3	B	(豊知用水) 上水道計画有り。
	若王子池	205,000.0	◆	8.7	6.8	0.75	(35)	2.5	27.0	B	( ) 粗放又は集約養殖

所在地	地名	大きさ	調査年月日	水温	pH	透明度	フナ類			備	考
							類(幼生)	枝角類	輪虫類		
瀬戸市	陣田池	1,000.0	42.12.15	5.1	8.5	15以上	20 (59)	185	1,028	B	(使用地が多い。食用魚の集約又は粗放棄種 コイ放流 通称事情が悪い。フナサギ卵の移入が可能 (愛知用水)粗放又は集約養殖 ( ) 同 上 ( ) 飼養で集約養魚がよい。 ( ) 集約養魚 ( ) 集約養殖を実施している。 ( ) 集約又は粗放棄種 ( ) 集約又は粗放棄種 ( ) 集約養殖がよい。 ( ) 公園内のため粗放棄種がよい。 富栄養で粗放又は集約養殖がよい。 ( ) 管理が比較的容易で集約養魚に適する。 親生養殖を実施している。 フナ、コイ、ヌアエビ等の粗放棄を実施している。 ( ) 粗放又は集約養殖に適する。 同 上 集約養殖が可能 同 上 粗放又は集約養殖に適する。 同 上 フナコガ繁茂、コイ新仔、フナ等の養殖に適する。
	篠田池	2,000.0	42.12.15	6.4	6.6	3.5	(3)	250	11	0	
	濁池	15,000.0	42.12.15	7.4	6.4	1.2	(18)	0	147	B	
	雑摩池	152,000.0	42.12.15	6.8	6.8	0.5	(8)	3	115	B	
	大泉寺大池	2,020.0	42.12.15	8.1	6.8	1.3	(9)	2	69	B	
	宮滝大池	35,000.0	42.12.15	8.1	6.5	2.5	10 (21)	64	407	B	
春日井市	大下大池	3,000.0	42.12.15	8.4	6.8	0.7	158 (225)	12	680	A	( ) 集約養殖を実施している。 ( ) 集約又は粗放棄種 ( ) 集約又は粗放棄種 ( ) 集約又は粗放棄種 ( ) 集約又は粗放棄種 ( ) 集約又は粗放棄種 ( ) 公園内のため粗放棄種がよい。 富栄養で粗放又は集約養殖がよい。 ( ) 管理が比較的容易で集約養魚に適する。 親生養殖を実施している。 フナ、コイ、ヌアエビ等の粗放棄を実施している。 ( ) 粗放又は集約養殖に適する。 同 上 集約養殖が可能 同 上 粗放又は集約養殖に適する。 同 上 フナコガ繁茂、コイ新仔、フナ等の養殖に適する。
	与兵池	59,000.0	42.12.15	9.5	9.0	0.5	79 (20)	0	86	A	
	落合池		42.12.15	8.7	6.8	3.0	216 (2,888)	21	58	A	
	荒井池	22,000.0	42.12.15	5.0	6.8	1.0	553 (2,990)	224	421	B	
	中島池	164,850.0	42.12.15	3.8	6.8	15以上	(3)	0	422	A	
	額田郡	不動ヶ池		42.12.15	4.5	6.5	3.5	(32)	0	39	
半田市	康術池	2,000.0	42.12.23	6.4	7.0	1.0	53 (448)	348	974	A	( ) 粗放又は集約養殖に適する。 同 上 集約養殖が可能 同 上 粗放又は集約養殖に適する。 同 上 フナコガ繁茂、コイ新仔、フナ等の養殖に適する。
	横川池		42.12.23	6.8	6.3	0.8	32 (200)	0	301	A	
	上池		42.12.23	6.9	5.6	0.8	17 (195)	8	30	A	
	七本池		42.12.23	6.7	5.6	2.0	106 (176)	319	8	A	
	増田池	58,513	42.12.23	6.7	7.1	1.0	3 (62)	79	81	B	
	別曾池	66,446	42.12.23	7.8	6.4	1.9	82 (12)	22	9	B	
知多郡	香山池	51,569	42.12.14	7.0	6.9	1.8	1	1	1	A	( ) 粗放又は集約養殖に適する。 同 上 粗放又は集約養殖に適する。 同 上 フナコガ繁茂、コイ新仔、フナ等の養殖に適する。

## 7. 海部地区内水面漁場調査

### (1) 調査の趣旨

海部地区では古くからボラを主とした内水面養殖が盛んであったが、近年周辺の工業開発が進み、また農薬の使用も多くなり、養魚池へも、汚濁水の流入が増加して来たので、養魚経営も非常にやりにくい環境条件になった。そこで、この実態を知るため調査を実施した。

### (2) 調査区域

海部郡養魚場全域

筏川、善太川、大膳川、佐宝川、戸田川、下川

### (3) 調査時期

昭和41年4月13日、7月20日、10月18日

昭和42年1月18日 計 4 回

### (4) 調査内容

区域内に10ヶ所定点(図-1)を設け、水質調査、プランクトン調査をした。

### (5) 調査結果

ア. 水質調査 水質の調査結果は表-1~表-4のとおりである。

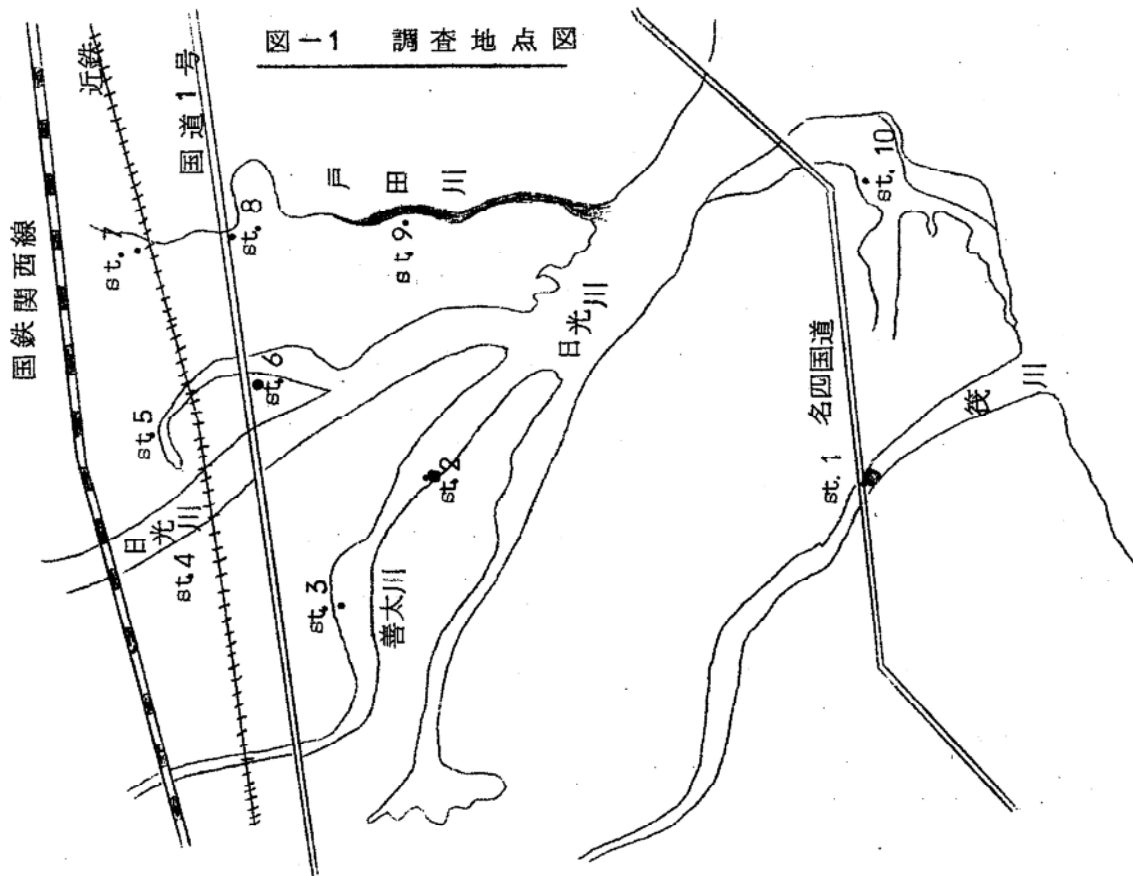


表-1 第1回観測

昭和41年4月13日

st	河川名	水深	水温	PH	透明度	溶存酸素		COD	chl
1	筏川 (小屋前)	0m	15.0°C	8.7	0.5m	88.6%	12.5%	9.3ppm	0.312%
		1.5	14.8	8.7		8.37	1.17	8.1	0.323
2	善太川(小屋前)	0.5	15.4	9.8	0.6	16.90	2.40	16.2	0.274
3	〃(中央)	0	14.0	9.6	0.8	13.98	1.93	—	—
		1.5	13.8	9.5		13.55	1.86	20.0	0.262
4	大膳川(小屋前)	1	14.1	9.0	0.6	9.76	1.35	17.0	0.867
5	佐屋川(ヘルズ前)	2	13.4	8.0	0.7	7.85	1.07	12.3	0.272
6	〃(小屋前)	0	15.0	8.1	0.8	—	—	12.7	0.962
		2	13.1	7.8		9.50	1.28	14.4	0.435
7	戸田川(供米田)	0	14.6	6.9	0.6	2.78	4.0	8.1	0.095
		2.5	12.6	6.8		0	0	23.8	0.177
8	〃(国道下)	0	16.4	7.4		6.26	9.1	12.8	0.768
9	〃(新東福橋)	0	15.8	9.0	0.5	14.34	2.05	15.7	0.258
		2	13.6	8.7		10.99	1.50	18.3	0.268
10	下川	0	15.3	9.0	0.5	8.10	1.15	10.6	0.951
		2	14.9	8.9		8.02	1.13	10.2	0.958

表-2 第2回観測

昭和41年7月20日

st	水深	水温	PH	透明度	溶存酸素		COD	chl
1	0m	34.2°C	7.5	0.5m	55.6%	1.05%	2.2ppm	0.10%
	1.8	27.1	6.9		2.35		3.0	0.12
2	0	33.6	7.7	0.6			3.6	0.06
	1	29.5	7.3				4.6	0.09
3	0	34.5	7.5	0.5			4.1	0.06
4	0	31.0	7.1	0.6			4.0	0.15
	1	30.8	7.5				4.1	0.37
5	0	29.5	6.9				4.8	0.10
6	0	31.0	6.9	0.8			2.8	0.06
	3	26.5	7.8				4.5	0.12
7	0	29.8	7.1	0.4	8.06	1.50	2.6	0.03
	2	27.0	6.9		0.14	0	5.1	0.10
8	0	33.0	6.7		4.04	7.6	2.2	0.08
9	0	30.8	7.1	0.4			1.7	0.05
	2	28.2	7.2		7.16	1.29	3.6	0.10
10	0	32.8	7.5	0.5	5.28	1.00	4.1	0.20
	2	30.0	7.4		3.82	7.2	3.0	0.12

表-3 第3回観測

昭和41年10月18日

st	水深	水温	PH	透明度	溶存酸素		COD	cl
1	0m	19.8℃	6.7	0.5m	6.16cc/l	95%	2.6ppm	0.27%
2	0	19.8	7.2		5.49	85	4.5	0.13
3	0	19.9	7.2	1.0	10.74	167	—	—
	1	19.5	7.1		3.75	58	4.5	0.15
4	0	19.7	8.7	1.0	10.50	162	—	—
	1	19.3	8.3		14.50	223	5.4	0.47
5	0	21.1	7.1	1.0	12.50	199	—	—
	1	18.7	6.7		6.49	98	6.4	0.19
6	0	19.5	7.1	1.0	14.90	228	—	—
	1	19.2	6.7		11.75	180	4.9	0.22
7	0	19.0	6.9	1.0	3.72	57	4.4	0.06
	2	18.2	6.7		4.75	71	3.9	0.10
8	0	15.8	6.9		1.85	26	5.0	1.66
9	0	19.4	6.9	1.0	3.81	59	6.3	0.20
	2	19.0	6.9		3.65	56	4.3	0.21
10	0	20.0	6.8	0.3	7.28	114	5.1	0.63
	1.5	19.4	6.8		4.85	75	3.2	0.72

表-4 第4回観測

昭和42年1月18日

st	水深	水温	PH	透明度	溶存酸素		COD	cl
1	0m	2.4℃	7.8	m	9.80cc/l	102%	3.0ppm	2.250%
2	0	3.0	8.9		13.60	144		
	1	3.0	8.9		13.35	142	6.5	0.22
4	0	3.0	8.6		10.15	108		
	1	2.6	8.6		10.09	105	7.9	0.84
5	0	6.2	9.1		11.36	131		
	1	5.0	8.7		8.72	97	6.7	0.45
6	0	3.2	8.7		10.70	114		
	1	3.8	8.7		10.50	114	6.1	0.50
7	0	4.0	8.2		10.01	109	10.9	0.42
8	0	2.6	8.4		11.85	125	6.5	0.54
9	0	3.6	8.4		7.66	83	8.0	0.62
	2	3.4	8.4		9.28	100	8.4	0.57
10	0	2.4	8.4		10.17	106	6.3	1.67



## 〔概 況〕

### ア. 佐 屋 川

塩素量は0.2～0.9%あり、ボラの養成にそれ程支障があるとは考えられず、COD、D.Oについても、余り問題になる数字ではない。しかし相対的に底層で酸素が少く、CODが高いことは、底質が汚染されているといえよう。

### イ. 大 膳 川

水質的には佐屋川と同様な状態と考えられるが、塩素量は下川と共に高い値を示している。

### ウ. 善 太 川

PHは全般に高いが、薬物によるものでなく植物プランクトンの同化作用に原因すると考えられる。酸素量については秋季に底層では飽和度が少ないが、底質が汚染されている疑いがある。

### エ. 戸 田 川

この河川については、中流部にゴミ捨場があり、上流は団地からの家庭下水が流入する等、周囲の環境条件としては好ましくない。従って水質も他の河川に比較して汚れが大きい。つまりCODは大きく、酸素量は少い。特に供米田橋では底層は無酸素状態の時もあり魚類の棲息に不適当な環境といえよう。

### オ. 下 川

塩素量は大膳川と共に比較的大きい値を示している。CODも余り高くない様であるが、酸素量については表層はともかく底層では70%程度の飽和度で底質の汚れが想像される。

### カ. 筏 川

水質は他河川に比較すると汚れが少ない様であるが、夏季底層の酸素量は40%位の飽和度でやはり底質の悪化が懸念される。

以上は各河川水質の概況であるが、要約すると、池水は富栄養化しているので、生産性は低いものではないと考えられる。しかし周囲の環境は楽観できるものではなく、工業廃液、農薬の流入、下水の流入等によって、汚濁が進んでいくものと考えられる。又底層の溶存酸素量が少いことからみて、水温上昇と共に水の交換の不良箇所では、魚の衰弱現象もみられるかも知れない。

## (2) プランクトン調査

調査結果は図-2のとおりである。

## (4) 考 察

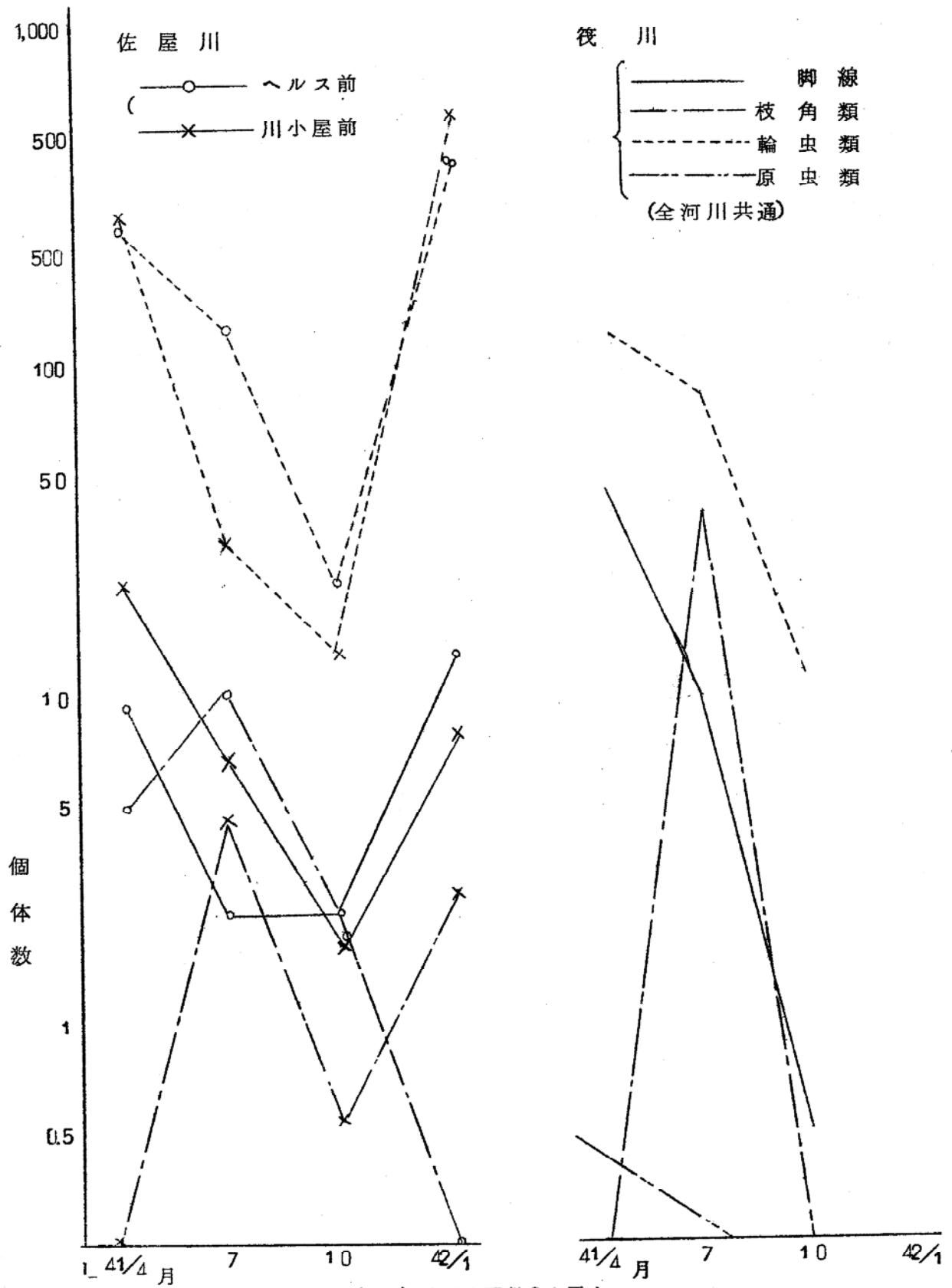
各河川の池水は概して富栄養であるが、底層の溶存酸素が少なく、底質は相当汚れており、全般的に老化現象が見受けられる。またプランクトンについては全河川とも 個体数の差は見られるが出現種類数では大差ない。ただ年間変動において優占種の輪虫類が一般的には夏期増加するのが普

通であるのに、佐屋川、大膳川、善太川中央、筏川において、逆に減少の傾向を示した。この原因として、①当地方の特異的な現象、②観測時の環境変動等による一時的な現象、③採集場所の選定採集方法（垂直）が不適當であった。等考えられるが、更に今後検討したい。

なお注目すべき点は、戸田川について他河川よりプランクトンも少なく、水質もあまり良好でない結果で、これは恐らく腐敗物質の流入による悪化の影響ではないかと不安を感じる。

要するに総体的に池水はⅠ—中腐水性—Ⅱ—中腐水性に属し、ボラを始め、コイ、フナの棲息には大きな影響はないと考えられた。しかし周囲の環境は工場廃液、或いは農薬、下水等の流入が次第に多くなり、汚濁はますます激しくなるとも予想され、水交換の不良箇所では、魚類の衰弱現象の可能性は多分にある。故に今後環境の改善には最大の努力を必要とする。

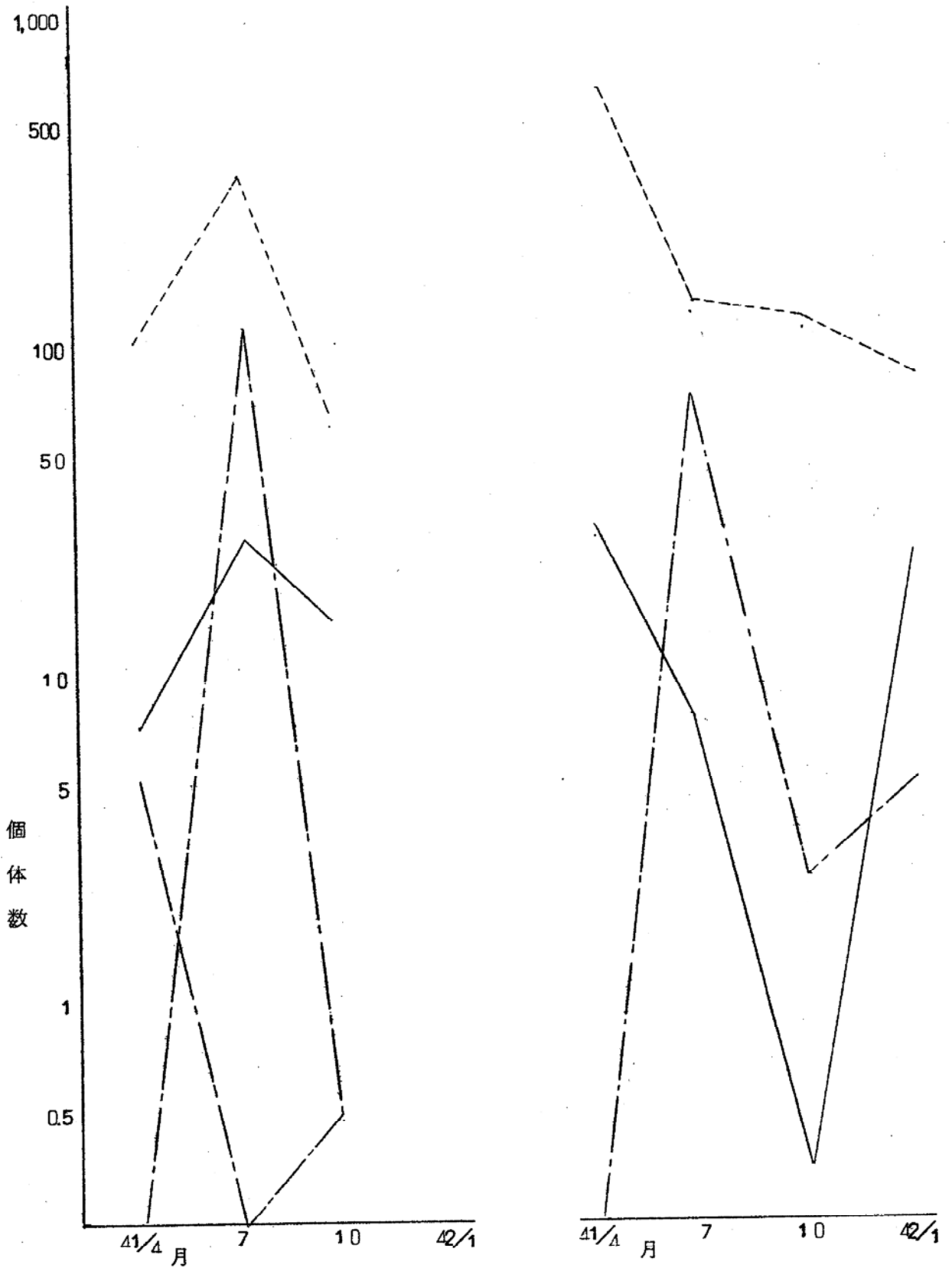
図-2 プランクトンの年変動 (単位 個/l)

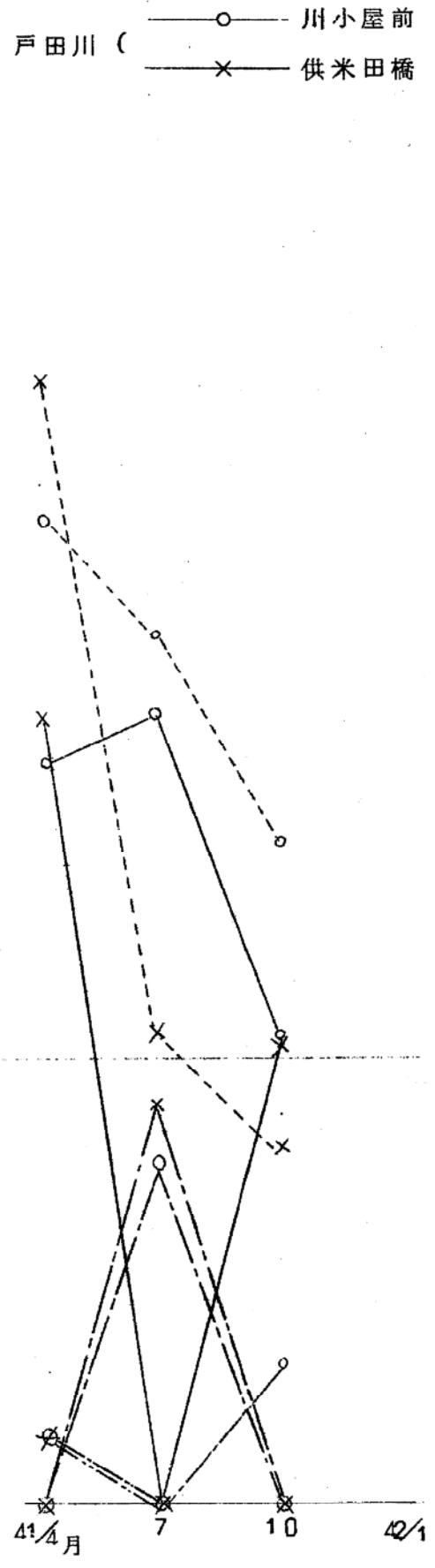
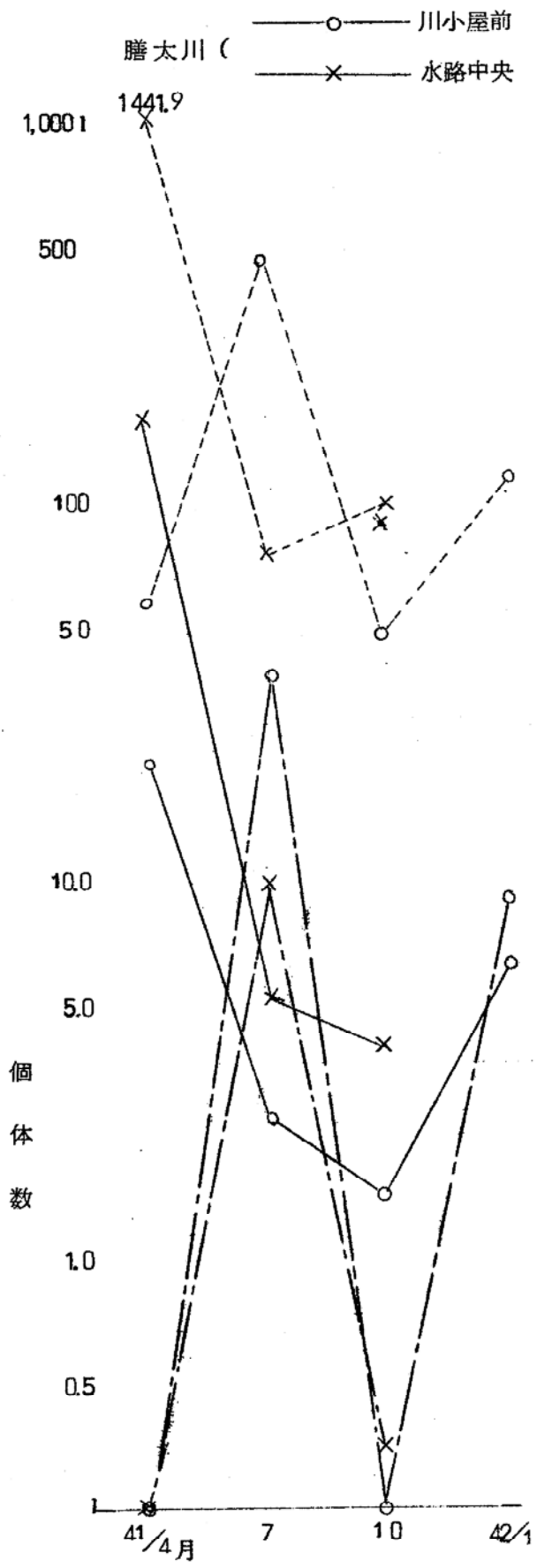


(注) 全河川共基線 (横軸) 上は出現数 0 を示す。

下 川

大 膳 川 (川小屋前)





## 8. 養魚技術指導

### (1) こい養殖技術

#### ア. 溜池養鯉について

県下には養魚に適する溜池が多く、特にこい養殖の希望が大きいので、溜池養鯉の技術から経営の見通し等について講演し、現地の溜池を診断指導した。その結果試験的ではあるが養鯉を始める地区もあらわれた。

知多郡美浜町（4.1. 8. 25） 出席者約50名

講師 浜中分場長

知多郡大府町（4.1. 8. 22 6） 出席者約30名

講師 浜中分場長

愛知郡長久手村（4.1. 9. 14） 出席者約20名

講師 小寺技師

#### イ. 網生簀こい養殖について

網生簀養鯉については最も能率的な集約的養魚法として大きな特色があるが、今度の場合大量の生産よりも取揚げが完全なことで、将来出荷調整池の役割に利点があるので特に普及指導を考えた。なお普及には次の地区を対照とし、網生簀養殖法の説明と現地診断を行なった。

#### 額田郡幸田町

幸田町役場（4.1. 8. 12）出席者約20名

講師 浜中分場長

不動池、大井池を対照としたが、42年度には差当り不動池において試験的に養殖することになった。

#### 西加茂郡三好町

三好町役場にて三好池の養魚振興案を説明し、普及をすすめたが、具体的には進行せず、将来計画として考慮される。

#### 東加茂郡下山村

三河湖については漁協理事に説明し、現地診断の結果も最適であることを認めたが組合員約280名の了解決議が至難で、まだその機運になっていない。

### (2) あゆ養殖

県下のあゆ養殖の伸びは日覚しく、年々増加しつつある。本年度特に要望のあったのは額田郡額田町内で2ヶ所あり、このうち1名は既に試験的に養殖することを決定したのであゆ養殖の概念を

説明するとともに現地診断をした。

(3) どじょう養殖

岡崎地区の要望により、現地を診断し今後のあり方について検討した。問題点は養成歩留の向上と、自由に取揚げできる捕獲方法について要望が強く、また養成についても副業的な方法が適当で、その指導をした。

(4) その他

足助事務所からの要請により振興事業として計画の養魚施設（旭町、下山村）について現地診断並びに養成池の設計指導した。何れも実施に入るのは、42年度になる見込みである。

養魚指導（技術相談）一覧

項目	月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
1. 池中養殖に 関すること。		9	21 (9)	18 (11)	5 (15)	12 (5)	6 (4)	3 (6)	1 (3)	3 (1)	9 (1)	7	9 (2)	103件 (57)
2. 溜池養魚に 関すること			14	12 (2)	6 (2)	3 (4)				2 (13)			12 (1)	49 (39)
3. 活魚輸送に 関すること		1			2 (2)	12 (12)	3 (3)	3 (3)					(1)	1 (21)
4. その他		1			1		5	3	1	1	6	3	6	27
計		11	35 (9)	30 (13)	12 (19)	15 (21)	11 (10)	6 (11)	2 (7)	6 (14)	15 (7)	10 (3)	27 (3)	180 (117)
見学		3人	350				4	7	4			5		373

9. 気象及び水温観測

昭和41年4月から昭和42年3月までの、当分場における気象、および水温観測の結果は次のとおりで、午前10時における値である。

## (1) 天 気 状 況

表-1

月 別	晴 天		曇 天		雨 又 は 雪		観測
	日 数	%	日 数	%	日 数	%	日 数
4	15	62.5	5	20.8	4	16.7	24
5	16	66.7	6	25.0	2	8.3	24
6	9	36.0	12	48.0	4	16.0	25
7	16	69.6	4	17.4	3	13.0	23
8	18	69.2	7	26.9	1	3.8	26
9	17	63.0	7	25.9	3	11.1	27
10	20	74.1	4	14.8	3	11.1	27
11	18	75.0	3	12.5	3	12.5	24
12	13	72.2	5	27.8	0	0	18
1	20	83.3	3	12.5	1	4.2	24
2	18	66.7	6	22.2	3	11.1	27
3	18	58.1	12	38.7	1	3.2	31
計	198	66.0	74	24.7	28	9.3	300

## (2) 気 温 (表-2 図-1参照)

表-2によると、本年度旬別平均気温の最高は7月下旬の30.5℃、同最低は2月中旬の2.5℃であり、これを月平均で見ると最高は8月の29.2℃、最低は1月の4.8℃である。なお本年度最高気温は8月9日の37.0℃、最低は1月4日の-9.6℃であった。

表-2 気 温

月 別	旬 別 平 均			月平均
	上 旬	中 旬	下 旬	
4	13.9℃	14.9℃	19.5℃	15.3℃
5	19.2	20.3	19.4	19.7
6	20.6	22.2	25.0	22.5
7	23.6	26.1	30.5	27.2
8	29.7	29.6	28.4	29.2
9	27.7	24.8	22.6	25.1
10	20.9	19.0	17.9	19.2
11	17.0	11.7	8.3	12.3
12	7.5	5.1	5.5	6.0
1	3.1	3.9	6.2	4.8
2	5.6	2.5	8.1	5.0
3	8.7	9.3	10.1	9.3



(3) 水 温

旬別水温は図-2のとおりである。

(4) 降 水 量

月別降水量は表-3のとおりである。

表-3 月 別 降 水 量

月	4	5	6	7	8	9	10
降水量 mm	92	166	140	141	88	205	104
月	11	12	1	2	3	計	月平均
降水量 mm	60	1	53	37	127	1,214	101

图-1 旬别平均气温

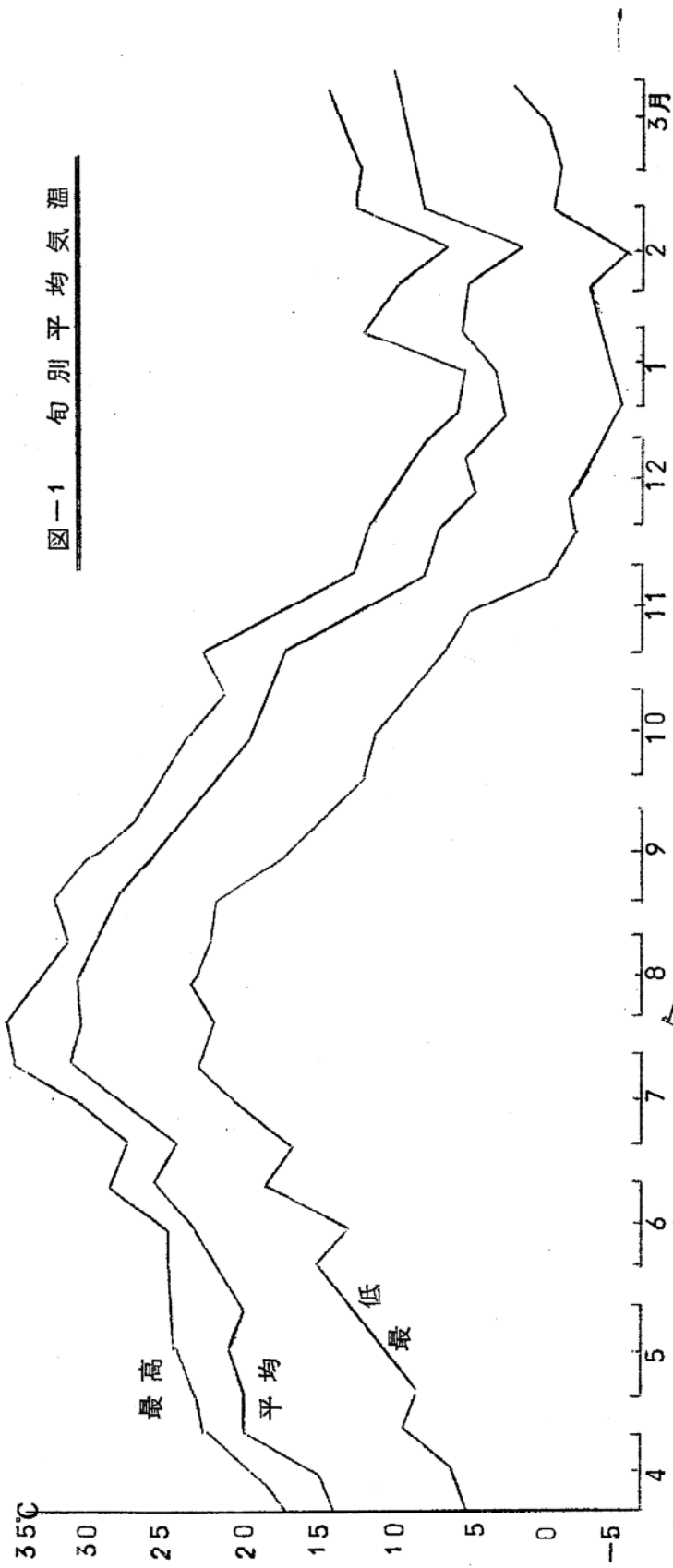
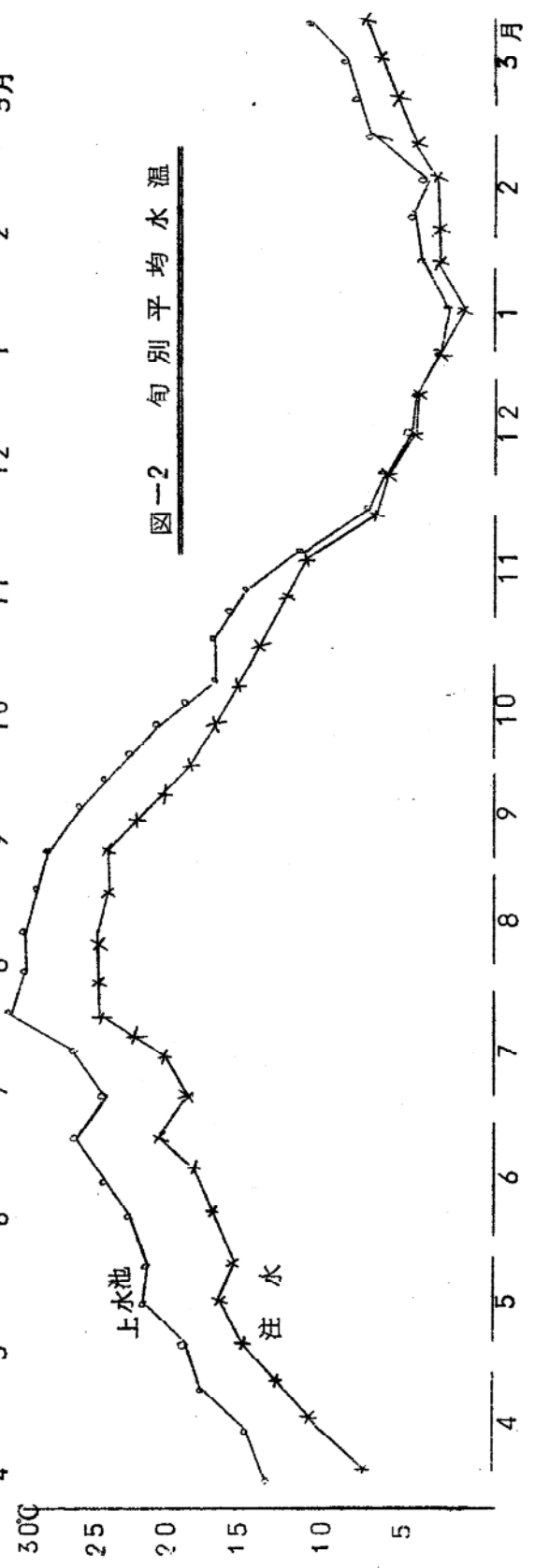


图-2 旬别平均水温



1. 種 苗 の 配 布

種苗は6月～12月に小型(平均体重1～20gr)のもの260,000尾、1月～3月に大型(平均100gr)のもの663kgを配布した。

配布状況は表4、5に示すとおりである。

表-4 種 苗 配 布 数 量

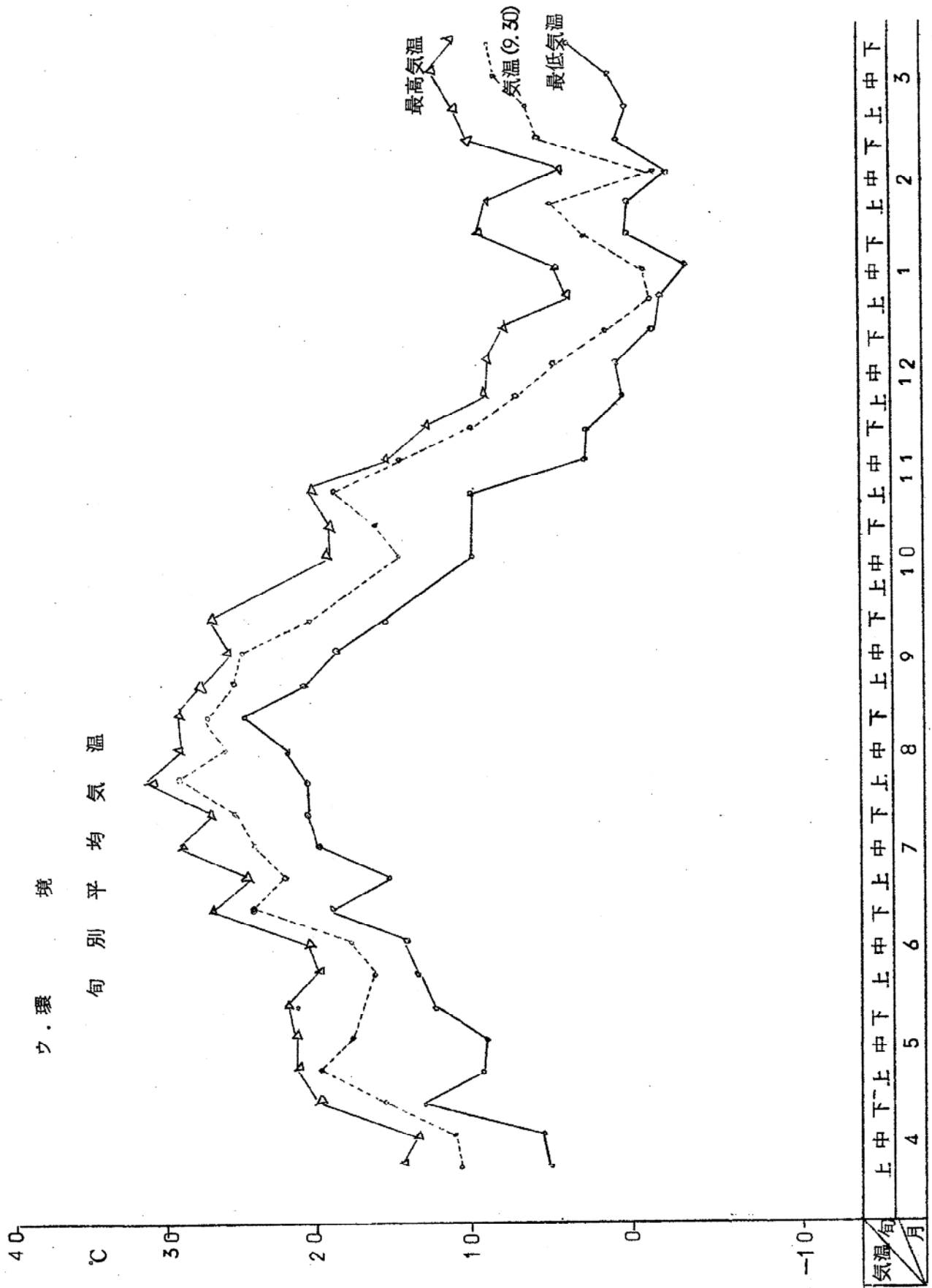
区 分	件 数	尾 数	重 量 (kg)
1～20grもの	6	260,000尾	1,239kg
100grもの	3	6,630	663
合 計	9	266,630	1,902

表-5 月別体重別配布状況

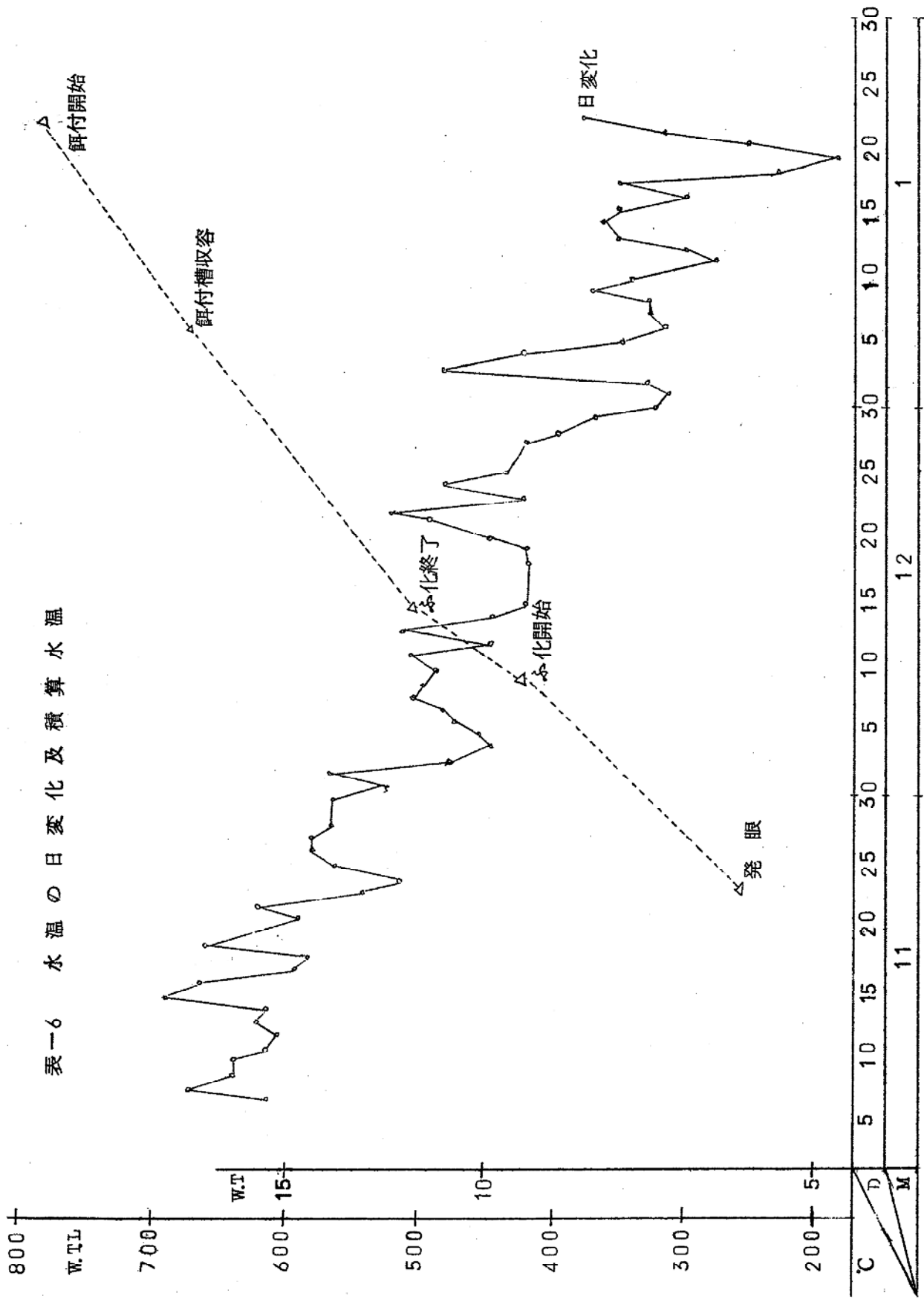
大きさ \ 月	6	7	8	9	10	12	1	3	計(尾数)
	千尾	千尾	千尾	千尾	千尾	千尾	千尾	千尾	
1gr以下	61								61,000
2～3gr	55	25							80,000
3.01～4gr		46	28						74,000
10～20gr				10	20	15			45,000
90gr以上							3.6	3.03	6,630
計	116	71	28	10	20	15	3.6	3.03	266,630

ウ. 環 境

旬 別 平 均 気 温



表一6 水温の日変化及積算水温



オ. 考 察

採捕した魚の82%余が雄であり、また雌雄共産卵後のすい弱した魚であったため親魚養成期間中の増重量への影響が大きかったので採捕する時期について考えるべきである。

にじますと混養したのは、あまごの供試尾数が少く餌付きが悪かったためである。混養したため、あまごに対する給餌量の数値が得られなかった。

稚魚餌付期間中、餌料効率が悪いのは、放養密度が少ないため餌料の無駄があったものと考えられる。

稚魚の養成期間に不明魚が多かったのは、魚に大小の差が大きくなり、共喰いによるものと思われる。